

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	世代間交流笑顔あふれるCAFÉ
資金分配団体名:	一般社団法人全国コミュニティ財団協会
実行団体名:	松山NPO登録団体natu-Re-lief
実施時期:	2020年12月～2021年7月
事業対象地域:	愛媛県
事業対象者:	高齢者／放課後家庭の事情で一人で過ごしている子ども／一人親世帯

Version 3.0
日付: 2022年6月19日

I. 事業概要

事業実施概要	<p>新型コロナウイルス感染拡大の影響によってカフェの開業が大幅に遅れ、事業期間を延長して6月に「Mitsu想（みつおもい）」が正式オープンとなった。以降は計画内容を一部修正して実施した。「子ども食堂」と「おとな食堂」は事業実施期間が短くなったことから当初の予定を変更して一括開催とした。6/17の初回開催から8/26までの期間に週1回の頻度で毎回50～70食の食事を提供して合計11回（590食）開催した。子どもや学生の他、一人親家庭には無料配布し、それ以外の大人には300円で販売した。別途、週1回の頻度で一人親家庭向けの弁当の無料配布を実施し、事業期間終了後も毎週の開催を継続している。</p> <p>「高齢者の居場所」、「放課後の子どもの居場所」については、開設当初から自然と午前中は高齢者、午後は子どもの居場所という形になり、一日3、4名の高齢者と4、5人の子どもたちが居場所として使用してくれるようになった。夏休み期間中には暑さをしのげる場所として、また、安心して過ごせる場所としてご家族からも好評をいただいた。また、毎週水曜日には学生ボランティアの協力により学習支援も行った。</p>
--------	---

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<p>開設前は利用して下さる方がいるのか、不安もあったが、思っていた以上に大きな反響があり、子ども食堂での食事の提供も一回の食数を増やすなどの対応が必要になった。居場所としての利用についても、高齢者をはじめとした様々な方に利用をいただき、子どもについても小学1年生から中学1年生まで幅広い利用があった。特に情報発信することで地域で協力して下さる方が増えていった。駐車場がなくて困っていることを相談したら、支所に置かせてもらえるように交渉して下さったり、地域包括支援センターや周辺の小学校や中学校のPTAからも問い合わせや反響があり、改めてこの事業の必要性を実感した。</p> <p>ただ、新型コロナウイルス感染拡大の影響が大きく、開設までの様々な問題やオープン後も利用いただける人数の制限など苦慮することが多くあった。しかし、コロナ禍だからこそこのような場所が必要であることは今回の事業を通して感じており、事業期間終了後も当団体の基本事業として継続していきたい。</p>
-------------------	---

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
子ども・学生	居場所の不足	カフェの定期的な開催を通じて、高齢者と子どもを中心とした地域の居場所になっている。	開設回数	子ども食堂：週2回 おとな食堂：週1回 ふれあいキッチン：週1回	子ども食堂・おとな食堂：平均週1回（延べ11回） ふれあいキッチン：平均週1回（延べ9回）	コロナ禍ということで子ども食堂とおとな食堂をテイクアウト方式にし、同時開催することで感染リスクの軽減を図った。開始当初の50食から60食に増やし、多い日は70食を超える食事を提供できたことは地域のニーズに合わせた活動が行えたと思う。また、ふれあいキッチンでは感染症対策を行いながら7、8月で9回開催し、6組の家庭に利用していただいた。
高齢者	居場所の不足	高齢者が集まる居場所となっている。	平均利用者数	平均利用者数：8名/日	平均利用者数：4名/日（延べ172名、営業日数41日）	結果は目標の半数となったが、コロナ禍での三密回避のための入店者数を制限したこともあり、やむを得ない数字になった。しかし、ご利用いただいた高齢者が子ども食堂のスタッフとしてボランティアを行って下さるなど、想定外の成果も生まれた。
子ども・学生	居場所の不足	放課後の児童が安心して過ごせる居場所となっている	①平均利用者数 ②学生ボランティア数	①利用児童数：5名/日 ②ボランティア数：2名/日もしくは延べ10人	①利用児童数：平均5名/日（延べ213名、開設日数41日） ②ボランティア数：平均2名/日（延べ41人、活動日数26日）	小学1年生から中学1年生まで様々な事情を抱えた児童とその友達が訪れ、宿題やその他の学習、遊びなど「居場所」としての役割が果たすことができた。また、3名の大学生がボランティアとして学習支援を手伝ってくれた。
生活困窮者	食料関連の不足	無料のおとな（ふれあい）食堂を開き、生活が困難なひとり親世帯に食事を定期的に提供できている	①おとな食堂のひとり親世帯参加数 ②継続利用率	①参加世帯数：20世帯/回 ②継続利用率：70%	①参加世帯数：16世帯/回（延べ84世帯、23回開催） ②継続利用率：100%	毎週木曜日の子ども食堂時、また金曜日にお弁当の無料配布を実施。参加世帯数は16世帯と目標に達しなかったが、参加いただいた世帯すべてが継続して利用があり、事業期間終了後も世帯数は増加している。

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況	愛媛県松山市三津浜地区において ・高齢者支援実利用者数50名以上を継続(一日平均10名) ・子育て世代の実利用者50名以上を継続(一日平均5名) ・放課後の児童支援実利用者50名以上を継続(一日平均15名) ・子ども食堂、おとな食堂での食事提供を各一回/週の開催で、一回当たり20食から30食の提供を継続
考察等	子ども食堂を毎週木曜日に開催し、それを継続できたことによって地域の「居場所」としての認知度も高まり、様々な年代の方に利用していただくことができた。愛媛県内のテレビ民放は4社すべてに取り上げていただき、県内全体への周知も図ることができた。その反響も大きく、三津浜地区だけでなく市内全域から子ども食堂の利用につながった。そして、子ども食堂の開催日以外にも子どもから高齢者までたくさんの方が利用され、高齢者はお茶をしながらお話を楽しんだり、子どもたちは宿題を持ち寄って学生の支援を受けながら勉強したり、遊んだり笑顔が溢れる場所になった。新型コロナウイルス感染拡大の影響は大きかったものの、当初に立てた目標とは実施内容に違いが生じたが、概ね期待した通りの活動を行うことができた。

V. 活動

活動	進捗	概要
■世代を超えた様々な人が気軽に立ち寄って利用できる多目的CAFÉスペースを開設	ほぼ計画通り	計画では子ども食堂とおとな食堂を分けての開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により同日開催となった。しかし、提供食数についてはほぼ予定通りに行えた。ふれあいキッチンについては、やはり感染拡大の影響により利用がない日もあったが、一人親家庭を中心に食事に来てくださり、食事と楽しいひと時を提供することができた。お客様との会話の中で必要性を改めて感じることができ、今後も継続して行ってきたい。
■放課後の子供の居場所として、勉強などを教えるプログラムを実施	ほぼ計画通り	小学一年生から中学一年生までの児童生徒がほぼ毎日入れ替わりながら訪れ、勉強や遊びの場所として活用した。学生ボランティアの協力のもと、学習支援を行うこともでき、保護者からも好評いただいた。今後も継続して行っていく。

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	三津浜地区を中心に、地域に寄り添った場所としてスタートしたが、市内各所からの問い合わせや利用をいただき、想定したよりも幅広い支援につながった。また、当団体の活動を知った別の団体が当団体への支援だけでなく、その団体の要支援者や関係団体にも周知して下さったことで、単独では困難だった範囲まで周知を広げることで、多くの方々の利用にもつながった。利用するひとり親家庭のための専用LINEアカウントを開設し、双方向で連絡を取れる設定にしたことで、支援金など行政手続きの方法、支援窓口の場所などの困り事相談の対応にもつながった。さらに波及効果として、地域の包括支援センターから独居高齢者宅への配食の依頼もあったため、配食サービスを開始することになった。また、家庭で余ったものをフードドライブ実施店舗まで持っていけないので寄贈したいという問い合わせが月数件あり、支援団体として間を調整する役割を担うことも増えてきた。居場所を軸として、地域の食を支える団体としても必要とされるようになってきている。
---------------------	---

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、支援を必要とする方の生活背景の幅も拡大していると感じられる。一人親家庭や失業した世帯だけでなく、仕事はあっても収入が減っているという現実はいくつかの方に見られ、今後はもっと幅を広げた支援が必要になると感じている。厳しい状況を抜け出すのは難しいものの、当施設を利用して下さる方からは「週に一度、ここに来れば食事がある安心感がある」と仰っていただき、改めて必要性と継続していくことの大切さを感じた。今後も他団体と協力をし支えあいながら支援を続けていきたい。
-----------	--

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
松山市小中学校PTA連合会	市内の小中学校PTA会長に活動内容を説明、周知を行った。
地域の小中学校PTA	地元の二つの小学校と一つの中学校にチラシを持参、配布を行った。
地域包括支援センター三津浜	地域の高齢者への情報発信を協力してもらい、新たに始めた配食サービスでは445個の弁当を配達することができた。
ライフサポートアゴラ	被支援者に対して支援情報を相互共有し、より多くの方に事業を利用してもらった。
松山青年会議所	青年会議所の青少年育成委員会との連携により、支援物資等の調達を行ってもらった。

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。（精算金額と一致させる必要はありません）

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	2,555,000	2,162,794	84.6%
	管理的経費	0	0	#DIV/0!
合計		2,555,000	2,162,794	84.6%
補足説明				

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビ愛媛 きえのえ〜とこ連れてって EBCライブニュース ・愛媛朝日テレビ やのひろみの笑顔見つけた（2回） ・南海放送 ニュースCh4 ・あいテレビ 金曜ほのぼ〜の ・愛媛経済レポート
2.広報制作物等 当該事業費を使って製作したもの	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども食堂のチラシ
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例）	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども食堂のチラシに掲載 ・「mitsu想」店舗に貼付（子ども食堂の看板）
4.報告書等	

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。	はい	
2. 内部通報制度は整備されていますか。	いいえ	常勤スタッフ3名と少ないため現段階では不要と考えている。
4. 関連する規程の定めどおり情報公開を行っていますか。	いいえ	ウェブサイトを作成していないため、情報公開は行えていない。活動の状況はSNSで発信している。
5. 事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されましたか。	全く整備されていなかったが、経理規程等を今回の事業をきっかけに整備することができた。	
6. 報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 （実施予定の場合含む）（複数選択可）	内部監査	